

冬から春は生物季節を記録するチャンスです

生命のにぎわい調査団では、気候変動による生き物への影響を把握していくことを目的に、開花、初鳴き、産卵などの生物季節がよく知られている生き物を選定し、皆さんからの報告を募集・収集しています。その年初めて確認した生物季節に関する情報を記録し、その経年変化を探っていきます。冬から春にかけての調査対象生物として、水田等の浅瀬で産卵するアカガエル類とトウキョウサンショウウオ、サクラの開花等を選定しています。今号では、これらの選定種について紹介していきます。種名横の記号は千葉県レッドリストのランク、写真隅の番号は団員IDです。

ソメイヨシノ

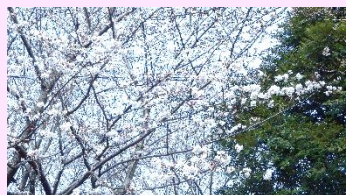


a0750

ソメイヨシノは最も広く栽培されているサクラの代表品種です。エドヒガンとオオシマザクラの交配で生まれた園芸品種です。

日本各地で気象台の開花観測の対象となっており、気候変動による影響を察知する際のモデル生物になり得ます。例年ですと、**3月20日**頃から開花報告が投稿され始め、徐々に件数が増加していきます。今年の初開花はいつになるのか、楽しみです。

満開の状態



ソメイヨシノは、満開の頃に意識して観察することが多くなります。しかし、にぎわい調査団で収集しているのはサクラの初開花に関する情報です。

普段の通勤や通学、散歩の際に見かける身近な植物ですので、今年初めて開花を確認した際は、その日時の報告をお願いします。

毎年、継続的に初開花の情報を記録することで、近所で咲いているサクラの変化に気付くかもしれませんね。今年から、記録を取り始めてみてはいかがでしょうか。

参考文献

関懐太郎・松井正文. 2021. 野外観察のための日本産両生類図鑑 第3版. 緑書房.
大原隆明. 2009. サクラハンドブック. 文一総合出版.

ニホンアカガエル(A)



a0963

平地から丘陵地の水田や湿地で見られます。目から体側に伸びる背側線は直線的で、ヤマアカガエルと区別する際のポイントになります。春早くに産卵した成体は再び休眠します。

ヤマアカガエル(C)



a0034

ニホンアカガエルとほぼ同様の環境で見られますが、より山地(房総丘陵)に多い傾向にあります。背面やのど元に黒い斑紋が出ることが多いです。春早くに産卵した成体は再び休眠します。

アカガエル類の卵塊



a1013

1月から4月頃に、水田や湿地、池等の浅瀬に、つぶれた球状の卵塊を産みます。ヤマアカガエルとニホンアカガエルの卵塊は非常に似ているので、報告の際はアカガエル類(卵)を選択してください。

トウキョウサンショウウオ(A)



a0034

小型サンショウウオの1種で、関東平野周辺の丘陵地帯(千葉県、神奈川県、東京都、埼玉県、栃木県南部)に分布しています。幼生から変態した後は陸上で生活し、主に小型の昆虫やミミズ類を食べます。

現在、特定第二種国内希少野生動物種に指定されており、商業目的の捕獲や販売が禁止されています。

卵のう



繁殖場所



繁殖は1月から4月頃に、池や湿地等の止水域で行われます。主に、森が隣接する水路や池等の浅瀬に産卵します。バナナ状の卵のうを一对、枯れ枝や落ち葉に産み付けます。

この他にも、ウメの開花やウグイスの初鳴き、4月以降にはツバメの飛来やセミの鳴き声等、1年を通じて季節の変化を追っています。詳しくは調査団マニュアルをご確認ください。

最新の生物多様性に関する情報や各種講習会の情報は当センターと調査団のホームページをご覧ください

調査団：<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index> と生物多様性センター：<https://www.bdcchiba.jp/>

古典文学と里山の生き物たちの世界



第十九回 アカギツネ

Vulpes vulpes 食肉目イヌ科



詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何をしていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

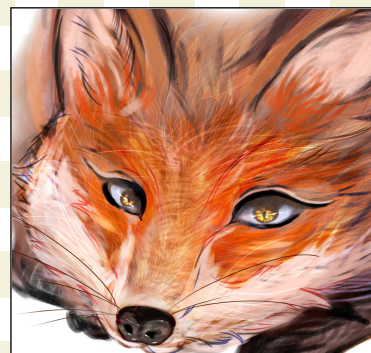
タヌキと並んで身近な里山の野生イヌ科動物・キツネは、巧みな狩りをし、ネズミなどの害獣を退治してくれる一方、時には家畜を襲ったり物を盗んだりもしますので、人間とは長年にわたって微妙な緊張関係にありました。

そのせいかどうか、古典文学や昔話におけるキツネは、頭はいいがどちらかというとずるく、霊的なパワーを持つという役どころを与えられていることがほとんどです。人間に化けたり、誰かをたぶらかす伝説も各地に残されています。

ところが、そのようなステレオタイプなキツネ像と全く逆なキャラクターのキツネが登場するのが、今回紹介する、室町時代から近世初期の作と思われる御伽草子『^{たまみず}玉水物語』です。

物語はまず、美しいお姫様にキツネが恋をするところから始まります。普通のキツネなら、ここでさっそく人間の男に化けてお姫様をだましに行くところですが、このキツネは違います。そんなことをしてお姫様に迷惑をかけてはいけないと思い、なんと自分も若い娘に化け、お姫様の家に奉公するのです。

キツネが化けた娘は「玉水」という名をもらい、実にかいがいしくお姫様のために懸命に働くので、お姫様は心からこの玉水を信頼するようになります。玉水は、もともとキツネであることを活かして、^{もみじあわせ}紅葉合（複数人で持参した紅葉のどれが美しいかを競う遊び）でお姫様を勝たせたり、人間に崇っているキツネを説得して崇りをやめさせたりと大活躍します。



画 齋藤倫瑠

しかし^{じゅだい}月日は流れ、お姫様が入内する（天皇の妃になる）日が近づいてきます。自分が動物であることの悲しみ、この世のはかなさをしみじみと感じた玉水は、お姫様に手紙と小さな箱を残して姿を消してしまいます。お姫様が手紙を開けてみると、そこには、自分が本当はキツネであること、これからもずっとお姫様を守ること、そして一緒に渡した箱は、いつまでも夫（天皇）から愛される魔法の箱であることが記されてあったのです。お姫様は玉水の愛情と優しさに心打たれ、涙を流すのでした……

多くの御伽草子がそうであるように、この『玉水物語』も作者が不詳です。時あたかも秩序が崩れ人は殺し合う室町時代末期、作者がこの純愛物語に込めた思いは一体どのようなものだったのでしょうか。

<これからの季節に観察できる生きもの>

- 調査対象種：イタチ、キジ、キンラン、アズマヒキガエル（卵）など
- 調査対象種以外
 - * 渡りのシギ・チドリ類、コガモやトモエガモなどのカモ類
 - * ホソミオツネトンボやカメノコテントウなどの越冬する昆虫類

調査対象種以外は種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

「生命のにぎわいフォーラム」のご案内

生命のにぎわい調査フォーラムを開催します。調査団員の活動報告や写真コンテストを行いますので、多くの方のご来場をお待ちしています。

日時：令和5年3月4日（土）午後1時～4時

場所：千葉県立中央博物館 講堂

定員：先着100名・参加無料（事前登録が必要です）

なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、中止や延期等、開催内容に変更が生じる場合があります。予めご了承ください。

同時開催！ 生命のにぎわい写真コンテスト

詳細は当センターのホームページやチラシをご参照ください。